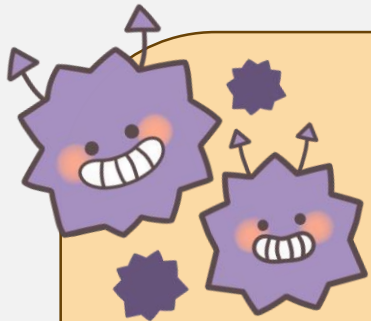


施設でのCOVID-19の感染対策

備中保健所井笠支所

2023年11月21日 令和5年度施設における感染症対策研修会資料

感染経路



感染源

病原微生物
ウイルス
汚染された手指
器具
機材 など



飛沫感染



空気感染



感染経路

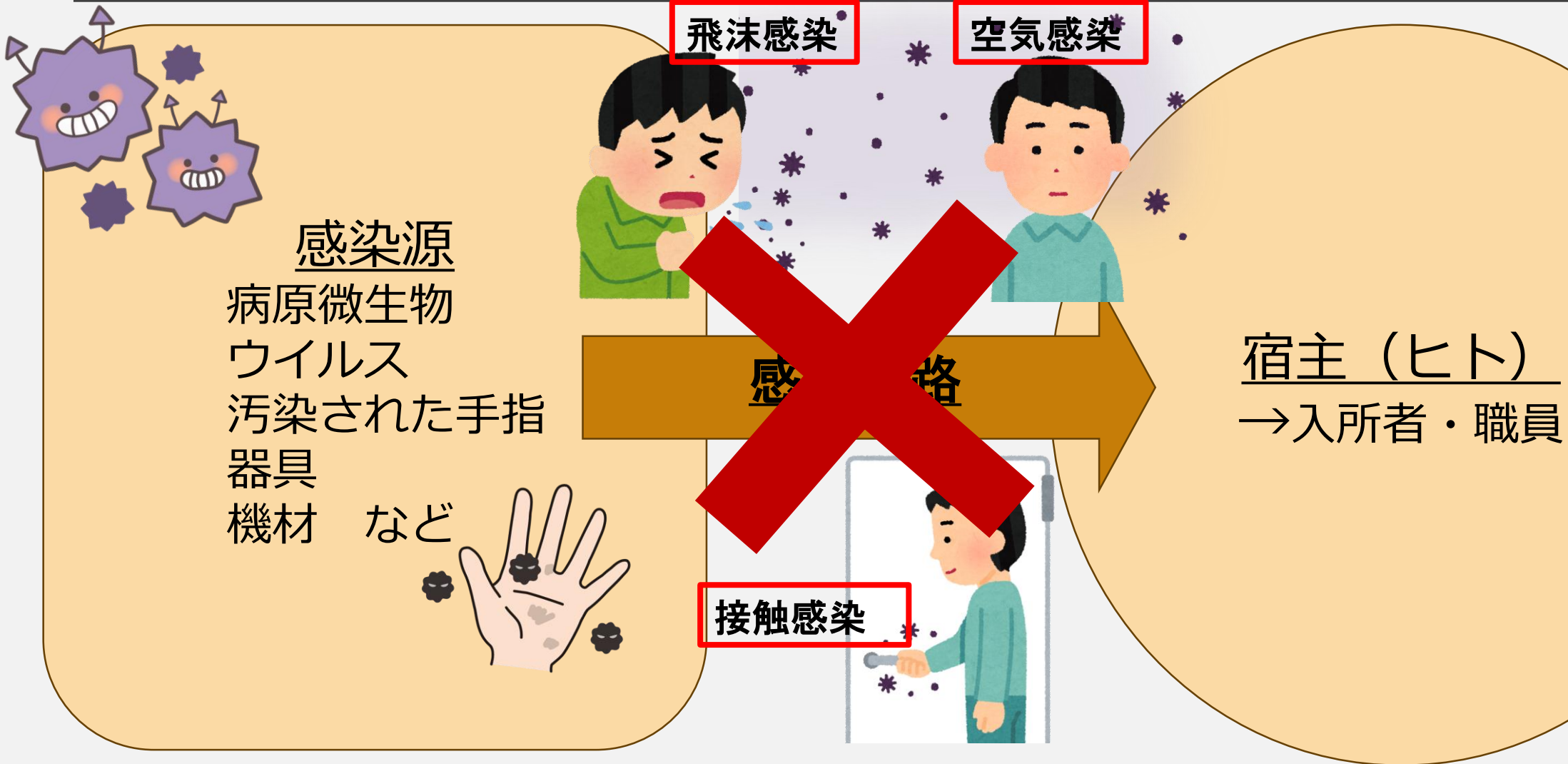


宿主 (ヒト)
→入所者・職員

接触感染

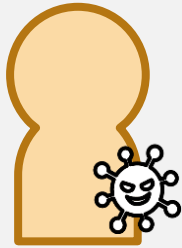


感染経路

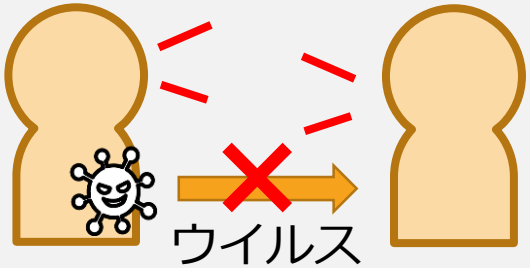


施設職員のCOVID-19の感染対策

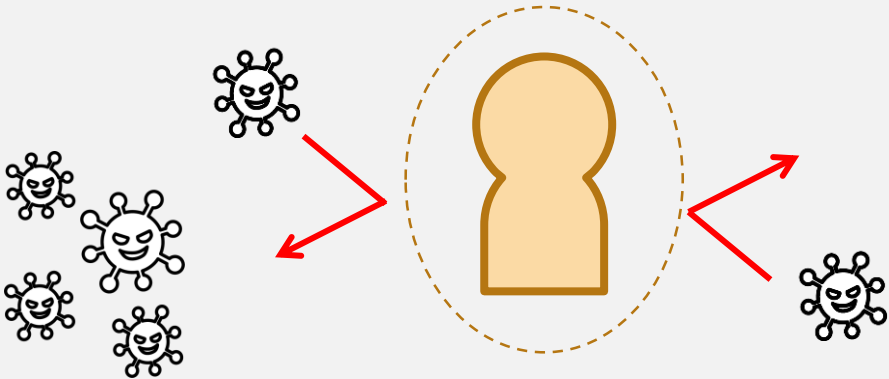
持ち込まない



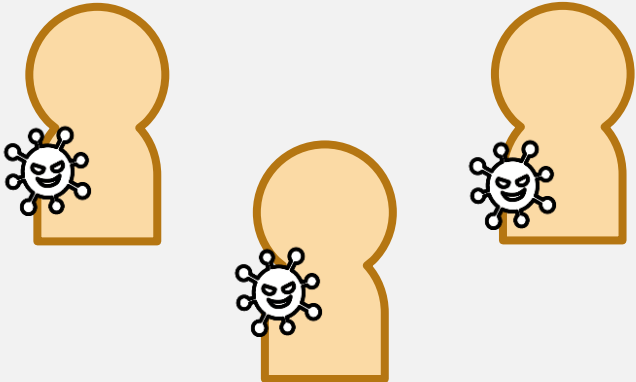
うつさない



うつらない



広げない



持ち込まない

出勤前の体調確認

※発熱だけでなく呼吸器症状、風邪症状、消化器症状なども要確認

体調不良時の対応

- ①体調不良時は休む
- ②自己判断せず病院を受診する
- ③体調が良くなるまでは無理して出勤しない

望ましい

現実には…



持ち込まない

出勤前の体調確認

※発熱だけでなく呼吸器症状、風邪症状、消化器症状なども要確認

症状はあるけど抗原検査陰性
代わる人もいないし出勤しよう

これくらい
しんどくない!

体調不良時の対応

- ①体調不良時は休む
- ②自己判断せず病院を受診する
- ③体調が良くなるまでは無理して出勤しない

望ましい

現実には…

コロナ：抗原検査陰性でもPCRは陽性
あるいはその後に陽性となることもある

持ち込まない

施設としての対策①

施設で有症状時の判断についてルールを決め、周知する
(症状があるときの対応、検査の結果を踏まえての対応)

• 施設としての対策②

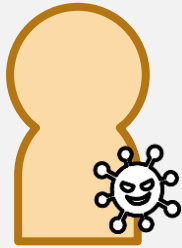
リスク管理のため症状があれば休める体制、シフトの調整



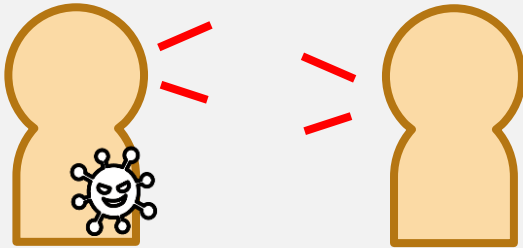
管理者の方
へのお願い

施設職員のCOVID-19の感染対策

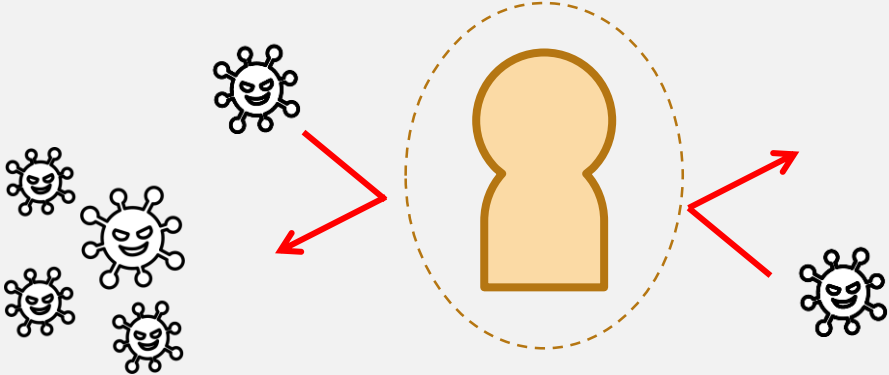
持ち込まない



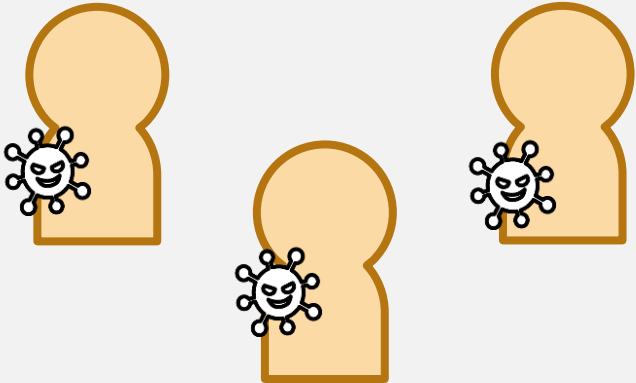
うつさない



うつらない



拡げない



うつさない うつらない 拡げない

具体的な対策・・・



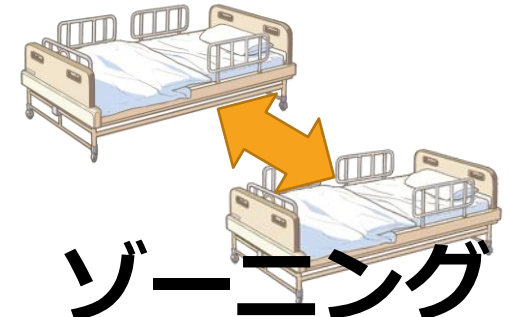
手指衛生



個人防護具



環境整備

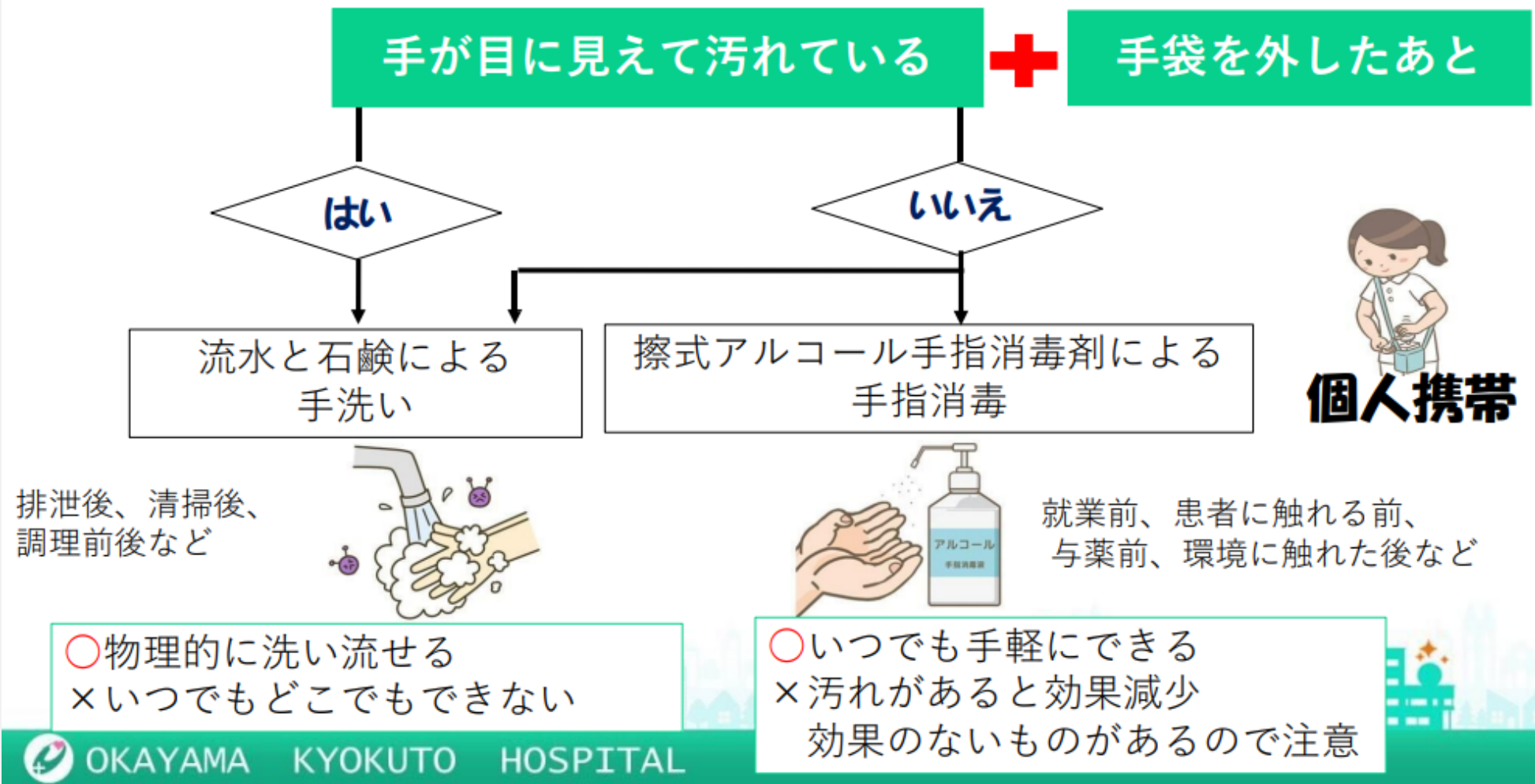


ゾーニング
適切な配置

これらはすべて標準予防策
→普段（平時）から行うべき感染対策の基本

うつさない うつらない 拡げない

① 手洗いと手指消毒の使い分け



うつさない うつらない 拡げない

②個人防護具

感染症の有無にかかわらず血液・体液・分泌物・排泄物などに暴露するリスクがあるときには、個人防護具使用

⇒入所者や介護者を感染や汚染から守る



手袋

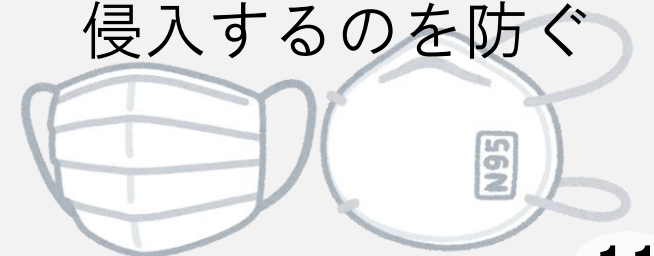
汚染したものに
触れる可能性がある
場合

ガウン・エプロン
飛散物から衣類・
身体を守る

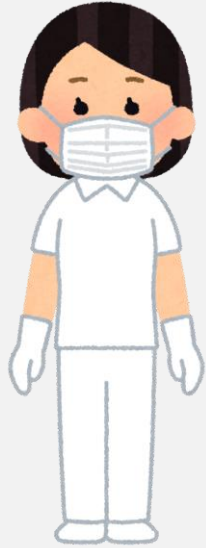


アイガード・フェイ
スシールド
飛散物から目を守る

サージカルマスク・
N95マスク（エアロ
ゾル発生手技）
飛散物が口・鼻から
侵入するのを防ぐ



うつさない うつらない 拡げない

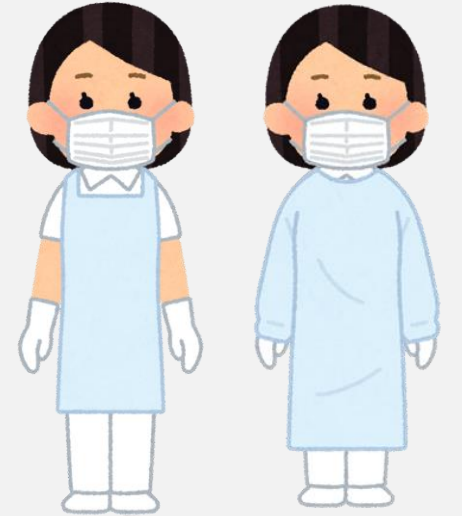


身体接触 低
飛沫暴露 無



マスク○
→飛沫の飛散が少ない

身体接触 高
飛沫暴露 少



配膳・配薬
検温

食事介助
排泄処理
移乗
吸引・吸痰



身体接触 低
飛沫暴露 少



マスク×
→飛沫の飛散がある

身体接触 高
飛沫暴露 高



うつさない うつらない 拡げない

身体接触 低
飛沫暴露 無

身体接触 高
飛沫暴露 少

マスクの着用が難しい対象者
⇒職員の身を守るためには正しいマスクの着用と
アイガードの装着を

身体接触 低
飛沫暴露 少

身体接触 高
飛沫暴露 高

マスク×
→飛沫の飛散がある

うつさない うつらない 拡げない

③環境消毒

○頻回に人が触れる場所

→1日1回程度消毒（過度には必要なし）

ex) ドアノブ、EVボタン、ベッド柵、トイレレバー

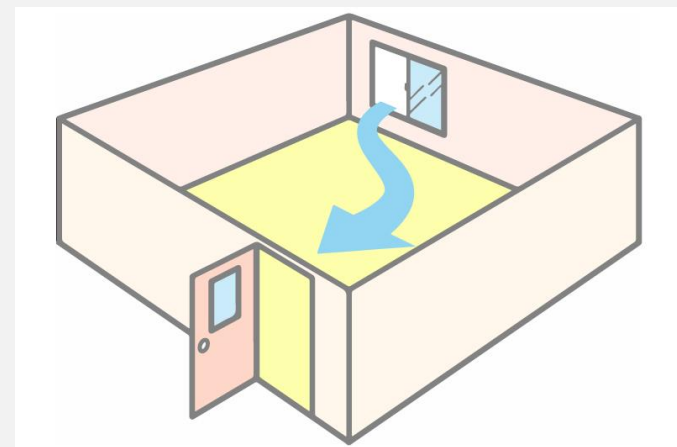
一方向に拭く



④換気

空気が滞留しないよう2方向で換気する

CO2センサーで1000ppm以下が適切な換気状態



感染症発生時に大切なこと

○職員の担当を明確化

- 一階やユニットで勤務する職員は固定する
(フロアの行き来はストップ)

○入所者のADLの保持

- 一感染者ができるだけフリーとなる環境を確保
- 一感染対策をしたうえで可能な限りリハビリ継続

○情報共有

- 一感染者発生後の情報共有と現場で視覚的に感染者が分かる工夫を

○応援体制の整備